



# CSR Report 2019

As an important part of your community, we hope to, through our creativity, contribute to the happiness in your life.

# 企業理念

私たち  
人類の永続と繁栄と幸せのため、  
創造的思考をもって、  
楽しく、真面目に、一所懸命行動し、  
地域にとってなくてはならない  
企業でありつづけます。

---

## 目次

- 01 企業理念
- 02 代表メッセージ
- 03 SDGs への賛同
- 04 CSR 基本指針
- 05 環境への取り組み
- 10 地域への取り組み
- 13 コンプライアンスへの取り組み
- 14 社員への取り組み

## 代表メッセージ

---



みなさま、毎々格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。本年度より CSR 報告書を作成することと致しました。初版は何分初めてのことでの製作にてこずり大幅に遅れましたが、来年度以降は期初に発刊できるように努めて参ります。

この報告書の目的は、弊社の今年度の年間活動報告にあります。毎月のニュースレターと違い、活動実績を基に、なるべく詳しい内容となるよう、まとめてみたいと考えております。

さて、近年、世界の環境におけるトレンドに大きな変革期を迎えてる様に感じています。具体的には、2015 年に国連サミットで採択された SDGs を契機として、環境が経済をけん引するトレンドに変わったのではないかと実感し始めております。CDP、RE100、SBT などの国際イニシアチブに加盟する日本企業は益々増えております。また、環境省自らも RE100 に加盟し、更に国内版 RE100 の枠組みを検討していると聞いております。このように環境が経済を支配する社会構造となったのでならば、弊社は、適正処理に加えて、みなさまのご要望を満たす $+ \alpha$ の付加価値を創造することに努めたいと考えております。まず具体的にはこれまでにも取り組んでおりました CO2 クレジットの取得を強化致します。

次に、中国では 2 年前より自国の環境改善を理由に廃プラスチック類の輸入を規制しております。今後もしばらく続くよう思います。更に先の大坂サミットで、海洋プラスチック問題が取り上げられました。関東地域を中心にプラスチックの廃棄問題が大きく広がっております。少なからず山陰にもその影響は及んでおります。まずは、従来の RPF 製造設備を増強して、廃プラスチック類の処理能力を強化致します。

このように社会現象に応じて、弊社も常に変化していくかと考えております。

最後に、弊社の企業理念に、「地域にとってなくてはならない企業であり続けます」という、とても重要な文章がございます。この意味するところが、私たちの活動の根源となす精神であります。地域に必要とされる企業であり続けるために、何を行動すべきかを常に考え、本年も社員一同、一所懸命に邁進して参ります。何卒、宜しくお願ひ申し上げます。

代表取締役社長 三輪 昌輝

## 三光グループは、2018年4月よりホールディングス体制に

2018年4月2日付にて、三光グループの持  
ち株会社として「三光ホールディングス株式  
会社」を設立致しました。これもひとえに皆  
様方のご支援によるものと心より感謝いたして  
おります。三光ホールディングス株式会社は  
グループのノウハウを結集し、更なる業務の  
強化と拡充を目指しグループ企業価値を向上  
させてまいります。



## 国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」へ賛同

持続可能な開発目標「SDGs（エスディージーズ）」とは、「Sustainable Development Goals」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによつて決められた、国際社会共通の目標です。

「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を期限とする17の国際目標です。世界193か国が合意し、全会一致で採択されました。

三光株式会社はSDGsに賛同し、目標達成に向けた三光としての取り組みを行っております。



# 「CSR 基本指針」

私たち三光グループは、地域社会、お客様、社員等のすべてのステークホルダーに対して社会的責任を果たすため、4つの重点課題を実践していきます。また、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」に賛同し、取り組みを推進してまいります。

## 4つの重点課題

1. 環境問題への配慮と保全活動
2. 地域への配慮・貢献
3. コンプライアンスの遵守
4. 社員が安心して働く仕組みづくり

### 「環境」

#### 環境問題への配慮と保全活動

- ・事業活動
- ・お客様満足
- ・高品質で安心安全な商品の提供
- ・ISO14001認証継続
- ・環境保全活動

etc.



### 「地域」

#### 地域への配慮・貢献

- ・工場見学の受入
- ・環境教育活動
- ・地域文化活動
- ・社会貢献活動

etc.

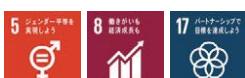


### 「コンプライアンス」

#### コンプライアンスの遵守

- ・法令遵守
- ・情報開示
- ・内部統制
- ・公平な取引
- ・CSRレポートの発行

etc.



### 「社員」

#### 社員が安心して働く仕組みづくり

- ・社員育成、公正な評価・処遇
- ・雇用の創出
- ・労働安全・環境教育
- ・ハラスメント相談室
- ・永年勤続者表彰

etc.

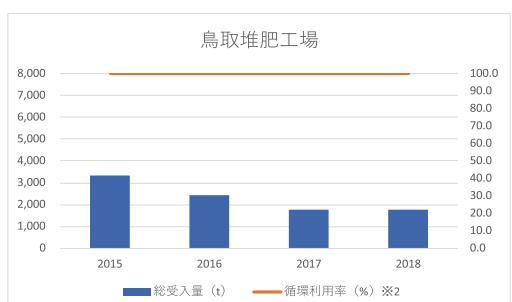
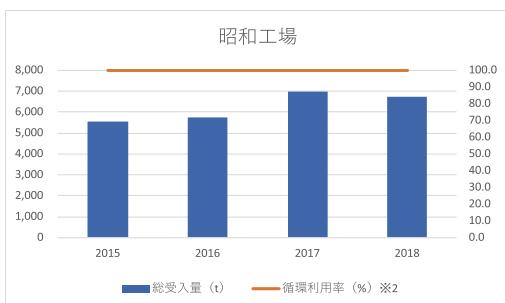
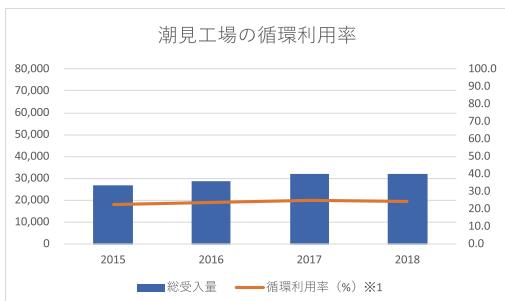
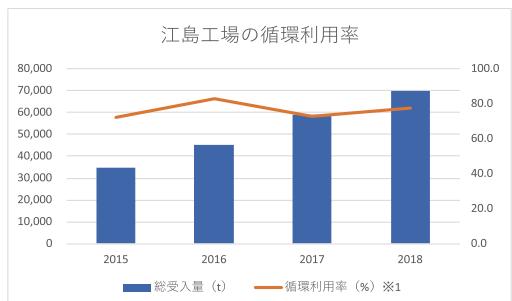


# 1. 環境



## 最新設備と独自技術で再資源化し、環境負荷を低減

当社の全工場の産業廃棄物の年間取扱量とリサイクル率をご報告いたします。年々廃棄物の処理量は増加しておりますが、リサイクル利用への活用に注力しております。



当社の取扱可能な廃棄物品目は特別管理産業廃棄物を含め 20 種です。また、2018 年度実績で、廃棄物処理の年間数量は全工場合わせて約 164,000t/年。その内、山陰エリア内の廃棄物が占める割合は約 86% となっています。

※1 上段 2 図 当社基準による循環利用率

循環利用率 = 再生量 / (総受入量 - 減容量 - 埋立) / 排出量

※2 規格外品を除く

## 低濃度 PCB 廃棄物の無害化処理

当社は 2013 年 8 月 19 日付で、環境大臣より低濃度ポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物の無害化処理認定及び収集運搬の広域認定を取得しました。これまで、2018 年 4 月現在、合計約 9,208t の低濃度 PCB 廃棄物の無害化処理を達成しております。

処分年(1~12月)	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
低濃度PCB廃棄物処分量	1,166	1,935	2,187	2,791	4,244

※PCB は、人工的に作られた主に油状の化学物質です。PCB は燃えにくく、電気の絶縁性に優れており、トランスやコンデンサといった電気機器の絶縁油として広く使われてきました。しかし、人体に甚大な健康被害を及ぼす有害物質であることが判明したため、昭和 47 年以降、新たな製造や使用は禁止されています。（低濃度 PCB 廃棄物処理の詳細については、当社 WEB サイト内「低濃度 PCB 廃棄物の無害化処理 – <https://sankokk-net.co.jp/pcb/index.html>」をご覧ください。）

## テクノリサイクルステーションによる「マテリアルリサイクル」への取り組み

当社は、循環型社会の構築に貢献すべく、日々リサイクル技術の向上及び確立に努めています。テクノリサイクルステーションは、廃棄物から有価物を選別し、全量をリサイクルすることに特化したリサイクル工場です。2016 年 4 月から廃棄物からリサイクル利用を生み出しております。

出荷物	2016年	2017年	2018年
フィルム類	1,601.0	1,999.0	1,760.0
鉄・アルミなどの金属	28.0	0.7	0.0
磁器テープ	21.0	0.3	0.0
PC基板、電源基板など	10.0	0.2	0.0

## CO<sub>2</sub>の削減に貢献する1,100t-co<sub>2</sub>(※1)のJクレジットを創出

当社の潮見工場と江島工場では焼却炉で発生する蒸気を使って、工場内で使用する電力を発電しています。自社工場で自家発電することによって、Jクレジットを創出し、温室効果ガスであるCO<sub>2</sub>を削減し、地球環境保全に貢献しています。

※1 潮見工場における6年間の発電によって創出されてJクレジット



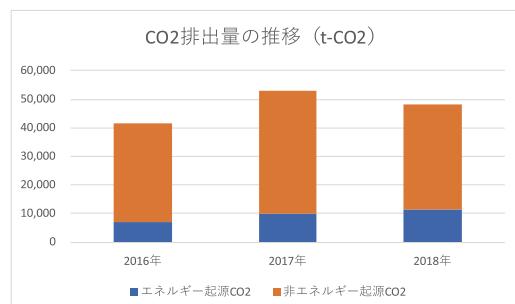
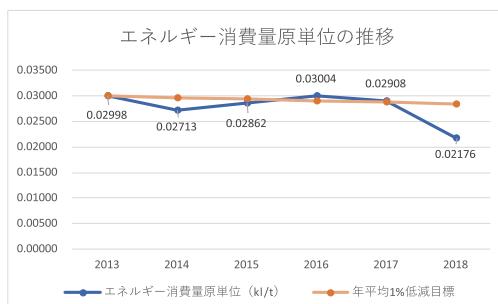
Jクレジット残高：2,085t-co<sub>2</sub>(2019年9月現在)

### 「J-クレジット制度とは？」

国が認証するJ-クレジット制度とは、省エネルギー機器の導入や森林経営などの取組による、CO<sub>2</sub>などの温室効果ガスの排出削減量や吸収量を「クレジット」として国が認証する制度です。本制度は、国内クレジット制度とオフセット・クレジット（J-VER）制度が発展的に統合した制度で、国により運営されています。本制度により創出されたクレジットは、低炭素社会実行計画の目標達成やカーボン・オフセットなど、様々な用途に活用できます。

## 省エネ・地球温暖化防止に関する活動

当社では自家発電設備の設置等により、エネルギー使用量の削減に取り組んでおります。事業の拡大や日本国内で増加しつづける廃棄物によって、当工場内で処理する産業廃棄物量も年々増えていますが、省エネ法で目標とされている毎年エネルギー消費量原単位1%の低減を目指して、事業活動に取り組んでいます。



## ドラム缶の利用を廃止、PCB運搬用のタンクローリーを新たに導入

当社で PCB 運搬専用のタンクローリーを導入し、従来 PCB 処分に使用していた廃ドラム缶などの減量を実現。全国の低濃度 PCB 回収に対応し、更なる飛躍に取り組んでまいります。従来は、ドラム缶や他社の PCB 運搬用タンクローリーをチャーターして回収を行っておりましたが、自社に専用タンクローリーを配備したことにより、迅速な低濃度 PCB の回収と環境負荷の低減に取り組んでまいります。



## 医療系廃棄物の迅速な回収を実現! 運搬を「流通株式会社様」に移管

病院などから排出される医療系廃棄物の収集運搬を、パートナー企業の流通株式会社様(鳥取県倉吉市)に移管しました。廃棄物の収集運搬について協力体制を築き、回収作業を行うことによって、お客様のご依頼に対して迅速に対応できるようになりました。更なるパートナー企業様を増やし共存共栄に努めてまいります。

地域密着サービス業  
**Ryutsu**  
流通株式会社

## 環境負荷の低減を加速、江島工場に新設備を増設

江島工場に廃棄物の圧縮ができる新しい設備を導入いたしました。この「圧縮梱包機」の導入により、中間処分した廃棄物の減容化が図れると共に、運搬コストの削減を実現。廃プラスチックなどの廃棄物を焼却処理ではなく、リサイクルすることによって、さらなる環境負荷の低減に貢献してまいります。



## JICA(国際協力機構)によるインド向けコンポスト製造プロジェクト

ODA(政府開発援助)の実施機関であるJICAの委託を受け、インド・ケララ州に於いて廃棄物からの堆肥（コンポスト）製造技術の普及・実証プロジェクトの実現に向け、三光グループとして取り組んでいます。



## ロシアにおける産業廃棄物分野の環境技術協力

ロシア・ウラジオストク市との技術協力覚書に基づき環境・廃棄物処理関連で様々な提案を実施。また、サハ共和国ヤクーツク市とも覚書を締結し、廃棄物分別システムの提案を三光グループとして行っております。



## ISO14001 の認証を継続

2005 年に認証を取得した、ISO14001 の認証を継続し、ISO10041 マネジメントシステム登録証が 2018 年も発行されました。当社の適正処理に加えて、各書類などの記録の管理の他、抽出した環境側面の評価や基準を順守した運用などが国際規格にも認められています。廃棄物処理に係る法令はもちろんのこと、今後も環境に配慮した企業経営を継続してまいります。



## 地域環境ボランティア活動を実施

当社は毎年春と秋に環境ボランティア活動を行っています。2017 年は天候に恵まれず、1 回しか実施できませんでしたが、2018 年は晴れて 2 回とも実施することができました。

早朝から、たくさんの社員とそのご家族が参加して、草刈りやゴミ拾いを行いました。環境ボランティアを通して、地域環境保全の気持ちを新たに致しました。



## 2. 地域



2018年12月28日、地域未来牽引企業に選定

「地域未来牽引企業」は、地域の特性を生かして高い付加価値を創出し、地域の事業者等に対する経済的波及効果を及ぼすことにより、地域の経済成長を力強く牽引する事業を更に積極的に展開すること、または、今後取り組むことが期待される企業です。当社は企業理念に掲げている通り、廃棄物処理の枠にとらわれることなく、地域にとって、地球にとって貢献できる事業を積極的に推進してまいります。



J3 ガイナーレのスペシャルマッチを開催

2018年9月2日(日)、三光グループ協賛のスペシャルマッチとして「2018 明治安田生命 J3リーグ 第21節ガイナーレ鳥取 vs SC相模原」の試合が、チュウブYAZINスタジアム(鳥取県米子市)にて開催されました。

試合結果は、7対0で快勝!!ガイナーレ鳥取のファンにはたまらない試合となりました。当社グループも協賛した試合がこのような結果となり、大変嬉しく思いました。



工場の廃熱を利用した、電力小売事業を実施

当社の廃棄物処理工場から出る排熱を利用して発電を行い、民間企業や一般家庭に向けて電力を販売しております。私たちはエネルギーの地産地消を可能にすることで地方創生を目指しています。



## 2018年度協賛イベントのご紹介

- 07月 ダイヤモンド社「鳥取県の注目15社」  
10月 第18回鬼太郎カップ境港駅伝競走大会  
10月 大山開山1300年祭記念  
「大山紅葉満喫ウォーク」  
11月 国宝松江城マラソン 2018  
12月 浅田真央サンクスツアー etc.



## 地元境港市の地域体験活動を受入

境港市教育委員会が実施している「ワクワク境港」（職場体験学習）を受け入れました。「みんなでならいや地域の先生」を合言葉に、学校と地域が一緒になって、こども達を育てようという取り組みです。活動に参加したこども達はとても真剣に話を聞いたり、作業に取り掛かるなど、熱心に取り組んでくれていました。地域にとってなくてはならない企業として、地域の未来を担うこども達を地域とともに、大切に育んでまいります。



## 各工場において、工場見学を受入

当社では地域住人の方々や学生のみなさん、産業廃棄物業界の方々などの工場見学受け入れています。

「産業廃棄物とは何か?」といった基礎的な説明から、「廃棄物処理の工程」や「環境へ影響」など、お客様のニーズに合わせた工程をご案内をすることで、地域にとってなくてはならない企業としての役割を果たすと共に、環境意識の醸成や、当社の事業活動に対するご理解を高めていただけます。



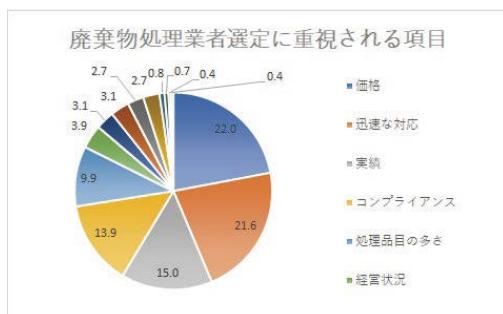
## 地域のお客様との関わりを重視「お客様満足度向上調査」を実施

お客様満足度向上に向け、年に 1 度のアンケートを実施いたしました。御多忙な折、ご回答いただきましたお客様にはこの場をおかりして、厚く御礼を申し上げます。  
集計いたしましたアンケート結果（一部抜粋）は以下の通りです。  
今後も社員一同、お客様満足度の向上に努めてまいります。

アンケート送付数：387 枚 ⇒ 回答数：253 枚（回答率：65.4%）

### ■ 廃棄物処理事業者を選定にあたって重視する項目【ベスト5】

- 第1位 価格 (22.0%)
- 第2位 迅速な対応 (21.6%)
- 第3位 実績 (15.0%)
- 第4位 コンプライアンス (13.9%)
- 第5位 処理品目の多さ (9.9%)



### ■ 当社サービスについてご満足いただいているもの【ベスト5】

- 第1位 迅速な対応 (20.5%)
- 第2位 実績 (16.8%)
- 第3位 処理品目の多さ (14.4%)
- 第4位 コンプライアンス (11.0%)
- 第5位 価格 (8.0%)



### 3. コンプライアンス



#### 全国 18 府県から産業廃棄物処理事業者「優良認定」

当社は、産業廃棄物処理業の実施に関し、優良基準に適合する業者として、全国 18 府県より『優良認定』を受けております。この『優良認定』は、ISO14001 の取得、電子マニフェストへの加入、情報公開等を行っていることを不可欠の条件としており、その運用や適正処理が評価されたものと言えます。

#### 法令遵守状況

2018 年度も重大な法令違反はありませんでした。当社事業に関するおもな法令とその法令に基づく基準内容等をご紹介します（一部抜粋）。

法令	内容
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の収集運搬基準、処分基準、保管基準、維持管理基準の遵守 委託契約の締結と管理、マニフェストの回付と管理 收取運搬車両への表示と書面の備え付け等 処理業者帳簿の備え付け、関係行政への処理実績報告
大気汚染防止法	Nox、Sox、ばいじん、ダイオキシン等の排出基準
道路交通法	走行速度、停車・駐車禁止、過積載の禁止
エネルギーの使用の合理化等に関する法律	エネルギー使用状況の報告、エネルギー管理士・管理員の選任等
地球温暖化対策の推進に関する法律	温室効果ガスの算定と報告
労働安全衛生法	安全衛生委員会/月、5Sパトロール/月 安全確保の措置、安全衛生推進者の選任と周知、清掃の実施など
消防法	消防計画の策定、訓練の実施、消防設備点検等

#### 法令に定められた積替保管場所新設計画を鳥取県倉吉市に申請

地元に根付いた産業廃棄物の回収運搬を目指して、倉吉市和田に廃棄物の積替保管場所の新設を計画し、鳥取県に申請いたしました。鳥取県内の 2 大拠点である鳥取市・米子市に次いで倉吉市においても、より迅速なお客さま対応と効率的な収集運搬に対応し、コンプライアンスを遵守した地域にとってなくてはならない企業でありつづります。



※赤色部分、倉吉市内の予定地

## 4. 社員



### 工場の効率化を実現、焼却炉管理のワンオペレーション化を開始

潮見工場、ウェストバイオマス工場にある2つの焼却炉管理を1人で行うワンオペを開始いたしました。これによって、工場内作業の効率化を図ると共に、2つの異なる焼却炉を一人で管理することによるマルチオペレーション化が実現します。従業員の働きがいを高め、安全作業を徹底すると共に、工場内作業の更なる効率化へ努めます。



### 2018年度IR大会を開催し、「永年勤続者」の社員表彰を実施

2018年4月22日、投資家の方々をお招きして、三光グループ経営計画発表会及び各表彰を行いました。三光グループの財務状況を公開すると共に、経営方針などを発表し、新年度の体制や取り組みを報告しています。また、社員の会社への貢献を称えた表彰やbingo大会を開催し、社員との親睦を深めています。今後もすべての社員が健康で働きがいをもって勤務できる、公平で健全な会社の運営に努めます。



「永年勤続賞」



「bingo大会」



### 社員の安全な職場環境を目指して「三光防災の日」研修を実施

2019年1月30日三光防災の日に因み、地震とそれに伴う火災に関する講演を受講しました。今回は1月30日に地震によって引き起こされる津波・火災など緊急事態発生時において身を守る方法について学びました。

まず、ビデオ講習にて大地震による被害の甚大さを再認識した後、配布資料を題材として境港消防署鹿島講師より防火管理についての講義を受講し、安全作業に対する意識を高めました。今年も一年間社員一同が『安全第一』を目標に、安全で安心できる廃棄物処理業務を行い、地球環境保護に貢献して参ります。

【お問い合わせ先】  
三光株式会社 サポート部 CS推進課



- 0859-44-5367
- info@sankokk-net.co.jp
- <http://www.sankokk-net.co.jp/>
- 〒683-0034 鳥取県境港市昭和町 5 番地 17

当社のホームページでは、CSR活動や環境保護活動報告を始め、事業内容、優良産廃処理業者認定制度にかかる情報開示などを行っています。